

《文しょうもんだい 9》

文しょうもんだいをやってみよう。答えを文しょうの中からみつけよう。

【れいだい】

つぎの文しょうを読んで、とくに答えよう。

さて、夜になりました。きょうは一年にいちど、星がふる日です。この村では、星のふる日にねがいごとをすると、何でもかなうという言い伝えがあります。そのため、毎年この日になると、村はおまつりさわぎになります。

「カケルは何をおねがいするの。」

ミノルがカケルに聞きました。

「ひみつだよ。だってミノルに教えたら、ねがいごとが、かなわなくなってしまうだろう。」

そうなのです。星のふる日にするねがいごとは、だれにも言うてはいけないのです。もし、だれかにねがいごとを言うてしまったら、そのねがいはいっしょかなわないと言いつたえられているのです。

(とい) 本文のないように同じものを、アからウからえらぼう。

ア 星のふる日にするねがいごとは、みんなに教えないといっしょかなわらない。

イ 星のふる日にするねがいごとは、だれにも言うてはいけない。

ウ 星のふる日にするねがいごとは、ミノルに教えないとかなわらない。

【答え】イ

【かいせつ】

本文のないように同じものをえらぶためには、まず本文のどこに書かれているかをさがします。アは、「みんなに教えないといっしょかなわらない」とは書いていないのでまちがいです。イは、「星のふる日にするねがいごとは、だれにも言うてはいけないのです」と書いてあるので答えになります。ウは、「ミノルに教えたら、ねがいごとが、かなわなくなってしまうだろう」とあるので、まちがいです。

つぎの文しょうをよんで、といに答えよう。

「おれにふみつぶせないものなんてないんだぞ。お前まえもふみつぶされたいのか。」

ぞうのルーカスは、おこるとすぐにこう言うので、まわりのなかまはいつもびくびくしていました。ある日ひ、ハリネズミのピーターがルーカスのなかまになりました。ピーターはルーカスに聞きましました。

「どうしてルーカスは、いつもみんなをこわがらせているんだい。」

すると、ルーカスはこう答えました。

「おれさまに、ふみつぶせないものなんてないからだ。それに、おれが一番いちばんからだが大おおきいからだ。」

そう言いってわらうルーカスに、ピーターは言いいました。

「ぼくは、ルーカスでもふみつぶせないものを知しっているよ。どうだい、ためしてみるかい。」

ピーターのことばにおこったルーカスは、ちようせんしてみることにしました。

「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」

「おいおい。小ちいさなお前まえなんて、あつというまにぺちゃんこになるぜ。」

ルーカスはわらいながら、ピーターをふもうとしました。すると、

「イタツ、イタタタ。」

ルーカスがとつぜん、大おおきな声こえを出だしました。ピーターが、からだのはりをぴんつとのばしていたのです。足あしのうらにはりがささったルーカスは、なみだ目めになってしまいました。ピーターは、

「ねっ。大おおきなルーカスにもふめないものがあつたでしょう。」

と言いって、につこりわらいました。

(一) ルーカスは、なかまといると、どんなことをしますか。アからウからえらぼう。

ア おこると「ふみつぶすぞ」と言いってみんなをこわがらせる。

イ みんなに「ふみつぶすぞ」と言いわれてびくびくしている。

ウ おこると「ふみつぶすぞ」と言いって、みんなを楽たのしませる。

(2) —線^{せん}ぶ「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」と言^いったのは、だれですか。

(3) なぜルーカスは、大^{おお}きな声^{こえ}を出^だしたのですか。
☐ に入^{はい}ることばを書^かこう。

のうらに

が

から

(4) 本文^{ほんぶん}のないようと同^{おな}じものを、アからウからえらぼう。

ア ピーターはおおるとみんなに「お前^{まえ}もふみつぶされたいのか」と言^いっていた。

イ 足^{あし}のうらにはりがささった。ピーターは、なみだ目^めになった。

ウ ルーカスにふまれそうになったピーターは、からだのはりをぴんとのばした。

つぎの文しょうを読んで、とくに答えよう。

「いちについて、ようい……。」

大きなピストルの音とともに、しょうたは走り出しました。きょうは、うんどう会です。しょうたは、この日のために、ひみつのれんしゅうをしてきました。

一週間前、しょうたは友だちのたいきと、どっちがはやく走れるかケンカになりました。二人とも自分の方がはよいと言うので、うんどう会でけっちやくをつけることにしたのです。

しょうたとたいきは、いっしょに走り出しました。二人とも、今のところ一番です。あともう少しでゴールです。

「ぜったいに、たいきにはまけない。」

そうつぶやきながら、しょうたがさいごの力をふりしぼうとしたときです。となりで走っていた、たいきがころんでしまったのです。しょうたは、まよいました。このまま走っていけば、たいきにかてる。でも、たいきの足からちがでているのに、そのままにしておいていいのだろうか。なやんだしょうたは、たいきのところへ走り出しました。

した。

しょうたは、たいきにかたをかってあげながら、二人でいっしょにゴールしました。二人とも一番は手に入れられなかったけれど、大切な友だちを手に入れました。

(1) なぜ、しょうたはひみつのれんしゅうをしていたのですか。□に入ることを書こう。

どちらがはよいか、

で

をつけることに

したから

(2) ころんだたいきを見て、しょうたはどうしましたか。アからウからえらぼう。

ア たいきにかつために、そのままゴールした。
イ たいきにかたをかってあげて、二人でゴールした。

ウ 足^{あし}からち^てが出ているたいきを、ほけん室^{しつ}へはこんだ。

(3) しょうた^てとたいきがゴールをして手^てに入れられなかったものと、手^てに入れたものは何^{なん}ですか。

手^てに入れられなかったもの

手^てに入れたもの

つぎの文しょうを読んで、とくに答えよう。

ある日、ハリネズミのピーターがぞうのルーカスのなかまになりました。ピーターはルーカスに聞きました。

「どうしてルーカスは、いつもみんなをこわがらせているんだい。」

すると、ルーカスはこう答えました。

「おれさまに、ふみつぶせないものなんてないからだ。それに、おれが一番からだが大きいからだ。」

そう言っいてわらうルーカスに、ピーターは言いました。

「ぼくは、ルーカスでもふみつぶせないものを知っているよ。どうだい、ためしてみるかい。」

ピーターのことばにおこったルーカスは、ちよううせんしてみることになりました。

「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」

「おいおい。小さなお前まえなんて、あつと言うまにぺちゃんこになるぜ。」

ルーカスはわらいながら、ピーターをふもうとしました。すると、

「イタツ、イタタタタ。」

ルーカスがとつぜん、大きな声こえを出しました。ピーターが、からだのはりをぴんつとのばしていたのです。足のうらにはりがささったルーカスは、なみだ目になってしまいました。ピーターは、

「ねっ。大きなルーカスにもふめないものがあつたでしょう。」

と言って、につこりわらいました。

(1) ルーカスのなかまになったのは、だれですか。

□に入ることをばかを書こう。

の

(2) どうしてルーカスは、ピーターのことばにおこったのですか。アからウからえらぼう。

ア ルーカスでもふみつぶせないものがある
と言ったから。

イ ルーカスなら何なんでもふみつぶせると言っ
たから。



ウ ルーカスにふみつぶせるものがないと言っ
たから。

(3) ルーカスにふまれそうになったピーターは、
どうしましたか。□に入ることばを書こう。

と
た

からだの
を



つぎの文しょうを読んで、といに答えよう。

「いちについて、ようい $\square$ $\square$ 。」

大きなピストルの音とともに、さくらは走り出しました。きようは、うんどう会です。さくらは、この日のために、ひみつのれんしゅうをしてきました。

一週間前、さくらは友だちのはるなど、どっちがはやく走れるかケンカになりました。二人とも自分の方がはよいと言うので、うんどう会でけっちやくをつけることにしたのです。

さくらとはるなは、いっしょに走り出しました。二人とも、今のところ一番です。あともう少しでゴールです。

「ぜったいに、はるなにはまけない。」

そうつぶやきながら、さくらがさいごの力をふりしぼろうとしたときです。となりで走っていた、はるながころんでしまったのです。さくらは、まよいました。このまま走っていけば、はるなにかてる。でも、はるなの足からちが出ているのに、そのままにしておいていいのだろうか。なやんださくらは、はるなのところへ走り出しました。

さくらは、はるなにかたをかしてあげながら、二人でいっしょにゴールしました。二人とも一番は手に入れられなかったけれど、大切な友だちを手に入れました。

(1) さくらがさいごの力をふりしぼろうとしたとき、何がおこりましたか。 $\square$ に入ることを書きこよう。

となりで走っていた

が

しまった

(2) ころんだはるなを見て、さくらはどうしましたか。アからウからえらぼう。

ア 足からちが出ているはるなを、ほけん室へはこんだ。

イ はるなにかつために、そのままゴールした。
ウ はるなにかたをかしてあげて、二人でゴールした。



(3) さくらとはるながゴールをして手に入れられなかったものと、手に入れたものは何なんですか。

手に入れられなかったもの

手に入れたもの



つぎの文しょうを読んで、といに答えよう。

「おうい。だれかおらんかのう。」

おじいさんは、海にむかつてさけびました。でも、だれもへんじをしてくれません。

おじいさんは船の上で魚つりをしていました。ぽかぽかと太ようの当たる船の上で、おじいさんはついうとうとねむってしまいました。少しさむいなおじいさんが目をさますと、そこは海のまなかだったのです。おじいさんがすんでいるりくが、どこにも見えません。こまったおじいさんは、だれもない海で一人たすけをもとめました。

しばらくすると、船の後ろの方からぽちゃんと水の音がしました。おじいさんがあわててふりみると、いっぴきのイルカが水の中から顔を出しています。おじいさんはイルカにおねがいました。「なあ、イルカさん。どうかこの船をりくの方に

おしてくれないかのう。」すると、イルカはおじいさんの目の前でくるとまわってジャンプをすると、水の中にもぐりました。そして、船をおしはじめたのです。船はぐんぐんスピードをあげてすすみます。イルカも楽

しそうに船のよこでジャンプします。おじいさんは、イルカのおかげで家に帰ることができました。

(1) おじいさんは、なぜ海のまなか

か。□に入ることを書こう。

ぽかぽかと

の当たる

の上で、ついうとうと

しまったから

(2) おじいさんがふりおいたとき、そこには何が

いましたか。



(3) おじいさんは、イルカのおかげでどうなりま
したか。□に入る^{はい}ことばを書^かこう。

に

ことができた

(4) 本文^{ほんぶん}のないようと同じ^{おな}ものを、アからウから
えらぼう。

ア おじいさんが魚^{さかな}つりをしていたら、イル
カがつれた。

イ おじいさんは、少し^{すこ}あついなと思^{おも}って目^め
がさめた。

ウ おじいさんは、イルカに船^{ふね}をおしてくれ
とおねがいをした。



つぎの文しょうを読んで、といに答えよう。

「おうい。だれかおらんかのう。」

おじいさんは、海にむかつてさけびました。でも、だれもへんじをしてくれません。

おじいさんは船の上で魚つりをしていました。ぼかぼかと太ようの当たる船の上で、おじいさんはついうとうとねむってしまいました。少しさむいなおじいさんが目をさますと、そこは海のま中だったのです。おじいさんがすんでいるりくが、どこにも見えません。こまったおじいさんは、だれもない海で一人たすけをもとめました。

しばらくすると、船の後ろの方からぽちゃんと水の音がしました。おじいさんがあわててふりむくと、いっぴきのイルカが水の中から顔を出しています。おじいさんはイルカにおねがいました。

「なあ、イルカさん。どうかこの船をりくの方に
おしてくれないかのう。」

すると、イルカはおじいさんの目の前でくるんとまわってジャンプをすると、水の中にもぐりました。そして、船をおしはじめたのです。船はぐんぐんスピードをあげてすすみます。イルカも楽

しそうに船のよこでジャンプします。おじいさんは、イルカのおかげで家に帰ることができました。

(1) 目がさめてこまったおじいさんは、何をしましたか。□に入ることを書こう。

だれもない

で一人

をもとめた

(2) おじいさんがふりむいたとき、そこには何が
いましたか。



(3) おじいさんは、イルカにどんなおねがいをしましたか。□に入ることをばを書こう。

どうかこの

を

の方に

くれないか

(4) 本文のないようにと^{おな}同じものを、アからウからえらぼう。

ア おじいさんが魚つりをしていたら、イルカがつれた。

イ おじいさんは、少しさむいと思^{おも}って目がさめた。

ウ おじいさんは、イルカにいっしょにおよごうとおねがいました。



ならびかえグイスに ちちのせん。

ひらかなを ならひかえし じふはを つくろひ。

※このからの づくから らちちのたけ つかわせら ひらかなを あいす。
その ひらかなを 〇に かにあしめい。



かちの なかあ。あせら たあを たへん。

--	--	--	--



うけ (わき) の ああはの じふ「せう」ふか らい。

--	--	--	--



れんを つくつ あれふし ないふふ。

--	--	--	--



かかを そろそ あいふく たか みつじきを しなら しせ。

--	--	--	--



ちの ふかく らいふ。だ。

--	--	--	--